

『 孟 冬 便 り 』

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠



【はじめに】

早いもので12月に入ろうとしております。当センターの研修講座事業等について振り返ってみます。本年度は、集合形式の開催を基本にして「課題の解決」というテーマで実施しました。アンケートの中に「今回の研修講座ではどのような課題をもって臨みましたか」と言う記述欄に、事前に自分の課題を明確に持つよう開講式で話しました。一日の講座の中で講師の講義を聴き、演習を行い、受講者同士の交流を通して自分の課題を整理する作業をしてもらいました。講座終了時点ではある一定の方向性を見つけて、自己課題達成率の評価をして、帰路に就くようお願いしました。

【本年度の実績は】

講座は、学校教育26講座、社会教育1講座、幼児教育1講座の合計28講座を実施しました。学校現場では大変多忙な状況であるにもかかわらず、最終的には、受講者は昨年度を大きく上回る、延べ821名を数えることができました。これは後志小樽の教職員数の凡そ62%にあたり、管内教職員の研修に対する高い意欲と熱意を感じることができました。

【受講者・講師の特徴は】

本年度に見られた受講者の特徴としては、研修の重要性をしっかりと認識し、その姿勢が非常に前向きでありました。受講後の自己課題達成率及びアンケートを見ると、教職員一人ひとりが講座に対して、主体的にかつ積極的に取り組んだ姿勢がうかがわれました。また、初任段階教員を初めとする若い先生方が目的意識を明確に持って受講していることに頼もしさを感じました。

研修講座の成功の鍵を担う講師陣は、大変意欲的で、自分の実践が受講者に伝わるように工夫を凝らしているのがとても印象的でした。特に、初任段階教員に向けては分かりやすく、丁寧にかみ砕いて話をしていました。そのような意味において、本年度の講師は当センターの研修講座の意義を的確に捉えて、その責務を全うしてくれました。



〈 学習指導(授業づくり)講座
—若い先生方の真剣な眼差し〉

【後志教育講演会の講演内容がHPで閲覧できます】

8月2日(金)に倶知安町ホテル第一会館にて開催しました。講師は国際連合難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所に勤務の工藤浩一上級渉外担当官、『世界の難民情勢とUNHCRの役割』という演題で講演を行ないました。小樽を含む後志管内から学校教職員、教育委員会職員、保護者、地域住民など120名の参加者がありました。工藤先生には講演後のアンケートで質問があった部分にも、後日丁寧に回答していただきました。講師と講演内容の精査が終了しましたので、センターのHPに掲載しております。

【指導案バンクをご存じですか】

当センターでは、一昨年度より教職員の授業力向上をねらいとして後志管内の教職員が日常実践している指導案や略案、授業づくりのコンテンツなど集めた『指導案バンク』を作成しています。指導案バンクの閲覧方法は既に各学校に案内がいていると思いますが、春に配付した『研究紀要NO.98』のQRコードからも入れます。



〈 新保元康外部講師 〉

【調査研究事業報告会に来て下さい】

結びになりますが、調査研究の中間報告となります調査研究事業報告会が令和7年1月10日(金)、倶知安町文化福祉センター公民館中ホールにて開催されます。昨年度は管内より75名の学校教職員や社会教育主事等が集まりました。当日は冬休み中で、飛び込み参加も大歓迎ですので、当センターの理論と実践に興味を持ってもらい、是非いらして頂きたいと思っております。

《R6.11.29》